電話の横に貼る1枚

「NTTの者です」の電話が来たら

電話では何も決めません。確かめるのは、手元の請求書に載っている番号で。

---

① 電話を受けた人が言う一言

> **「契約のことは、担当が確認してから折り返します。**
> **会社名と、お名前と、折り返しの電話番号を教えてください。」**

- 名乗らない、番号を言わない相手とは、そこで切ってかまいません。
- 「光回線にしないといけない」「電話機や回線の調査に伺う」と言われても、その場では決めません。どちらも、そういうことは無いとNTT東日本が書いています。
- 会社の名義で結んだ契約には、個人の契約にある「書面を受け取ってから8日以内なら取り消せる」決まりが使えません（総務省）。後から取り消すのは難しいので、電話口で止めます。
- 本物か確かめたいときは、相手が言う番号ではなく、手元の請求書に載っている番号にかけます。

② 折り返して確かめる人（社長・総務）が聞く3つ

折り返す前に、回線・電話・電話機の請求書を手元に並べます。契約の名前は、こちらから言いません。

1. **「うちとは、どの契約でのご連絡でしょうか。」**
2. **「契約しているサービスの名前を教えてください。」**
3. **「御社がうちと結んでいる契約を教えてください。」**

電話機の型番やお客さま番号は、こちらからは伝えません。日取りの約束は、確認が済んでからにします。答えを、請求書の差出人と内訳の行で照らします。

照らした結果	すること
相手の会社名が、どの請求書の差出人にも内訳にも無い	折り返さない。うちとは契約の無い会社
「どの契約か」に答えられない。逆に型番や請求書をこちらに聞いてくる	そこで切る。日取りは約束しない
会社名も契約の答えも、請求書の行と合う	請求書に載っている番号にかけ直し、「点検の連絡をしたか」を確かめる

本物だった場合でも、交換を勧められたら、その場では決めません。

出典: 小さな事業のIT手帖 https://it-techo.com/kubaru/（元の記事: https://it-techo.com/posts/ntt-sales-call-contract-ledger/ ／ https://it-techo.com/posts/ntt-impersonation-three-questions/。根拠はNTT東日本・NTT西日本・総務省の公開情報で、各記事に出典のURLがあります）

出典を書けば、印刷・配布・会報やニュースレターへの転載は自由です。文言を変えるときは「改変しています」と書いてください。

版1（2026-09-22）